

真庭・蒜山地域にちなむ短編小説を読む 第一回

# 小説『大宮踊り』朗読会

神崎信一著 (第5回新潮・同人雑誌賞受賞作)

「清司さん、あんた、まさか村を  
でるのがいやになったんじゃ  
ないじゃろうね」



朗読 前原茂雄 (蒜山郷土博物館館長)

井伏鱒二、三島由紀夫が認めた短編小説の秀作。  
二〇二〇年の真庭初披露から四年、多くの希望に  
応えて再演決定!!

田舎の閉塞感に絶望し、都会への駆け落ちを試みる若い男女。蒜山・大宮踊を披露するため開催される民俗芸能大会をチャンスと決めた。公演先で偶然出会った人々の苦悩と現実。揺れ動く男女の思い。ふるさとの自然と心、文化の真の豊かさを感じづかされるラストシーンは圧巻である。

●八月四日(日) 三時三十分朗読と解説  
蒜山郷土博物館  
電話〇八六七・六六・四六六七

●八月九日(金) 一九時〇〇分朗読と解説  
中央図書館 (飲食物ご持参ください)  
電話〇八六七・四四・二〇二二

●入場無料・予約不要・定員四〇名

第二回 吉谷省三著

小説『牛追い』朗読会

第6回内田百閒文学賞最優秀賞受賞作  
蒜山の酪農農家を題材にした短編小説、真庭初披露。「岡山縣北部高原地帯の、牛飼ひ農家代々の移り変りがよく描いてある。」(阿川弘之)

一〇月五日(土) 三時三十分 蒜山郷土博物館  
一〇月十一日(金) 一九時〇〇分 中央図書館

あんた、まさか

